

2023年3月期（第55期） 第2四半期 決算説明会資料

加賀電子株式会社
2022年11月24日

KAGA ELECTRONICS CO., LTD.

目次

- **2023年3月期 第2四半期決算概要** P- 3～

2022年3月 第2四半期 サマリー
業績ハイライト/セグメント別概況
バランスシート/キャッシュフロー/通期業績予想

- **経営トピックス** P-27～

新中計経営目標の見直し/
EMS事業の成長投資：マレーシア・トルコ新工場/
在庫削減 / 人的投資：統合レポートより/
ステークホルダーへの利益分配・還元

- **参考情報** P-34～

2023年3月期 第2四半期 決算概要

取締役 常務執行役員 管理本部長
川村 英治

加賀電子、川村でございます。平素より格別のお引き立てを賜りまして、誠にありがとうございます。また、本日は決算説明会にご参加賜りまして、厚く御礼申し上げます。私から、2023年3月期の第2四半期決算の概要をご説明させていただきます。

2023年3月期第2四半期 サマリー

2023年3月期 第2四半期実績

- 売上高は、前期比757億円 (34.0%) 増収の2,987億円。主力の電子部品事業において、自動車や産業機器関連を中心に広範な分野で販売伸長。
- 営業利益は、前期比100億円 (121.3%) 増益の183億円。売上増および販売ミックス良化に伴う売上総利益率向上により売上総利益が大幅増加。
- 売上高から四半期純利益まで、すべての項目で2Qとして過去最高。
- 社内計画に対して、売上高は237億円、営業利益は48億円上振れ。

2023年3月期 業績予想

- 半導体市況、新型コロナ、ウクライナ情勢、為替変動など先行き予断を許さず、2Qにおける上振れのみ反映し上方修正。3Q以降は期初の見通しを変えず。

	売上高	営業利益	当期純利益
前回予想	5,400億円	240億円	160億円
今回予想	5,700億円	280億円	200億円

株主還元

- 年間配当は、前回発表予想150円から50円増額し、1株当たり200円に修正。(中間配当100円、期末配当100円)
- 前期実績1株当たり120円より80円増配。



サマリーです。売上高は前期比757億円、34%増収の2,987億円となりました。主力の電子部品事業において、自動車や産業機器関連を中心に広範な分野で販売が伸長したことによるものです。

営業利益は前期比100億円、121.3%増益の183億円となりました。売上増および販売ミックス良化に伴う売上総利益率向上により売上総利益が大幅に増加しております。

売上高から四半期純利益まで、すべての項目で2Qとしては過去最高を記録しております。社内計画に対して、売上高は237億円、営業利益は48億円上振れしております。

2023年3月期の業績予想を変更しております。半導体市況、新型コロナ、ウクライナ情勢、為替変動など、先行き予断を許さず、2Qにおける上振れのみ反映して上方修正しております。3Q以降は期初の見通しを変えておりません。

この結果、売上高は従来予想の5,400億円に300億円上乗せした5,700億円、営業利益は240億円を280億円、当期純利益は160億円を200億円に、それぞれ上方修正しております。

続きまして、株主還元です。年間配当は前回予想の150円から50円増額し、1株当たり200円に修正しております。中間配当100円、期末配当100円の予定です。前期実績1株当たり120円より80円の増配となっております。

2023年3月期第2四半期 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2022/3期 2Q実績		2023/3期 2Q実績		前年比	2023/3期 業績予想 (2022年8月4日修正)	進捗率
売上高	223,009		298,760		34.0%	540,000	55.3%
売上総利益	27,133	12.2%	40,001	13.4%	47.4%	—	—
販管費及び一般管理費	18,832	8.4%	21,639	7.2%	14.9%	—	—
営業利益	8,300	3.7%	18,361	6.1%	121.2%	24,000	4.4%
経常利益	8,452	3.8%	18,932	6.3%	124.0%	24,500	4.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,624	2.5%	13,412	4.5%	138.5%	16,000	3.0%
EPS (1株当たり四半期純利益、円)	207.39	—	510.88	—	—	609.58	—
為替レート 円/US\$	109.80	—	133.97	—	—	116.00	—

(注)：1. 為替による影響額は、売上高が約194億円、営業利益が約9億円です。
2. 「x.x%」は利益率を表します。



4

こちらは、第2四半期の業績ハイライトとなります。

売上高は、先ほど申し上げたとおり、2,987億6,000万円でした。売上総利益が400億100万円となり、前期比47.4%増となっております。総利益率は13.4%となり、前期に比べ1.2%改善しております。

販売費及び一般管理費が216億3,900万円となり、こちらは売上増に伴って販管費も若干増加しております。

この結果、営業利益は183億6,100万円となり前期比121.2%増、経常利益は189億3,200万円となり124%増、親会社株主に帰属する当期純利益は134億1,200万円となり138.5%増という結果となっております。

この結果、1株当たりの当期純利益は510円88銭となっております。また、為替レートにつきましては133円97銭のドルレートとなっており、前年に比べ24円ほど円安に振れております。

また、これまで発表しております従来予想に比較しますと、売上高の進捗率は55.3%、営業利益は76.5%、親会社純利益は83.8%の進捗率となっております。

2023年3月期第2四半期 セグメント別業績

(単位：百万円)

		2022/3期 2Q実績		2023/3期 2Q実績		前年比	2023/3期 業績予想 (2022年8月4日修正)		進捗率
電子部品	売上高	194,406		268,464		38.1%	477,000		56.3%
	セグメント利益	7,123	3.7%	16,617	6.2%	133.3%	21,300	4.5%	78.0%
情報機器	売上高	18,713		19,597		4.7%	39,000		50.2%
	セグメント利益	910	4.9%	965	4.9%	6.0%	2,000	5.1%	48.3%
ソフトウェア	売上高	1,237		1,307		5.6%	4,000		32.7%
	セグメント利益	▲ 109	—	95	7.3%	—	100	2.5%	95.6%
その他	売上高	8,651		9,392		8.6%	20,000		47.0%
	セグメント利益	320	3.7%	658	7.0%	105.2%	600	3.0%	109.7%
合計	売上高	223,009		298,760		34.0%	540,000		55.3%
	セグメント利益	8,300	3.7%	18,361	6.1%	121.2%	24,000	4.4%	76.5%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「x.x%」は利益率を表します。



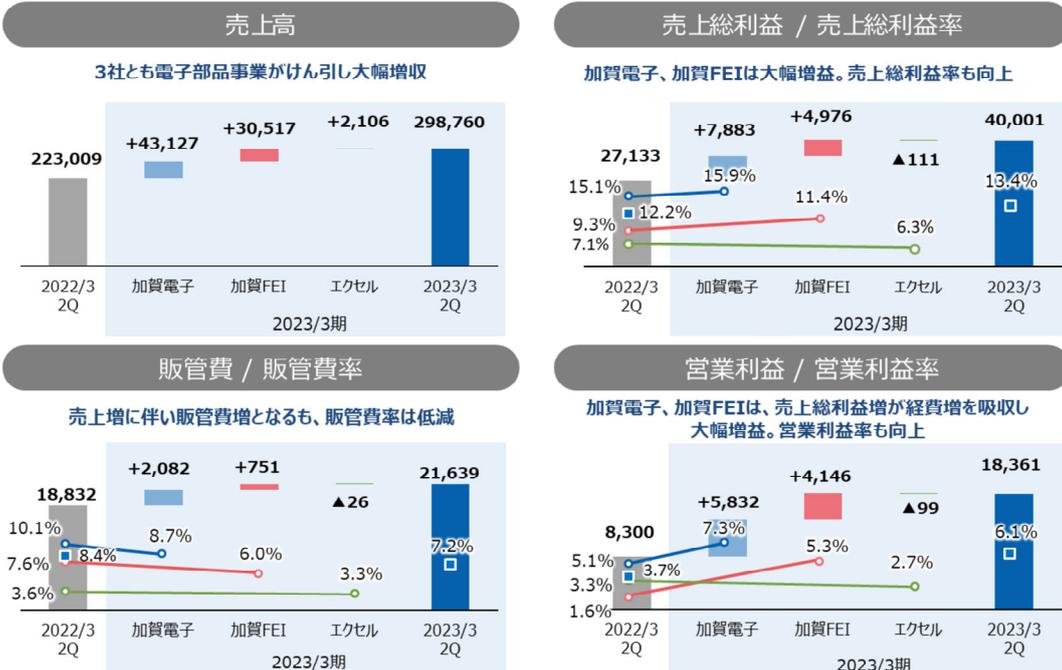
こちらは、第2四半期決算のセグメント別の情報となります。

電子部品が全体の9割を占めており、その電子部品事業の売上高が2,684億6,400万円となり前年比38.1%増、セグメント利益は160億1,700万円となり133%増となっております。

その他、情報機器、ソフトウェア、その他、各セグメントにつきましても全て黒字化されたのがご覧いただけるかと思えます。

2023年3月期第2四半期 M&Aの影響

(単位：百万円)



(注)：売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。6
 なお、連結調整額は売上総利益は▲26百万円、営業利益は45百万円です。

こちらは、M&Aの影響をグラフにして表したものです。

売上高につきましては、従来の加賀電子グループ、それから3年前にグループ入りした加賀FEI、2年前にグループ入りしたエクセルの3社に分けて表記しています。

売上高につきましては、3社とも電子部品事業がけん引して大幅に増加しております。内訳は加賀電子が431億円増、FEIが305億円増となっております。

売上総利益につきましては、加賀電子、加賀FEIが大幅に増益となっております。また、売上総利益率も向上しております。内訳は加賀電子が78億円増、FEIが49億円増となっております。また、総利益率は加賀電子が15.1から15.9、FEIが9.3から11.4と増加しております。エクセルにつきましては若干低下しております。

販管費ならびに販管費率につきましては、売上増に伴い販管費も増加しておりますが、販管費率は低減しております。

最後に、営業利益です。これらの結果、営業利益は加賀電子が58億円増、FEIが41億円増となり、全体の増益の大きな要因となっております。

2023年3月期第2四半期 会社別業績

(単位：百万円)

		2022/3期 2Q実績	2023/3期 2Q実績	前年比
加賀電子	売上高	125,272	168,400	34.4%
	売上総利益	18,850 15.1%	26,734 15.9%	41.8%
	営業利益	6,402 5.1%	12,235 7.3%	91.1%
加賀FEI	売上高	68,240	98,757	44.7%
	売上総利益	6,325 9.3%	11,301 11.4%	78.7%
	営業利益	1,067 1.6%	5,214 5.3%	388.3%
イクセル	売上高	29,495	31,602	7.1%
	売上総利益	2,103 7.1%	1,991 6.3%	▲5.3%
	営業利益	966 3.3%	866 2.7%	▲10.3%
合計	売上高	223,009	298,760	34.0%
	売上総利益	27,133 12.2%	40,001 13.4%	47.4%
	営業利益	8,300 3.7%	18,361 6.1%	121.2%

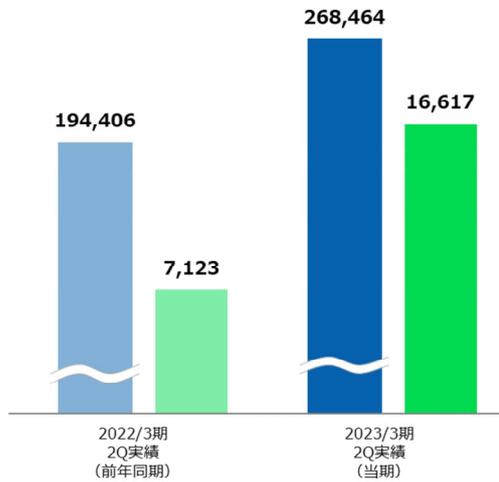
(注)：1. 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。
2. 「x.x%」は利益率を表します。

2023年3月期第2四半期業績：電子部品事業

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■ / ■ 売上高
■ / ■ セグメント利益



前年比

- 売上高 ▶ **+74,057百万円 38.1%増**
- セグメント利益 ▶ **+9,493百万円 133.3%増**

- ・ 部品販売ビジネスは、一部部材では需給が緩和し始め、広範な業界からの需要に前広に対応し、収益を大きく伸ばす。
- ・ 供給不足が続く車載・産業機器向けには、加賀電子、加賀FEIとともにスポット販売に取り組み、収益拡大に寄与。
- ・ 併行して、代替製品の提案にも精力的に取り組む。
- ・ EMSビジネスは、車載および医療機器向けを中心に好調に推移。

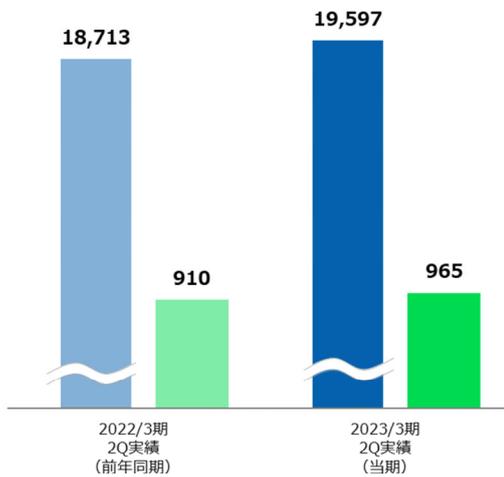


2023年3月期第2四半期業績：情報機器事業

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■/■ 売上高
■/■ セグメント利益



前年比

● 売上高 ▶ **+883百万円 4.7%増**
● セグメント利益 ▶ **+54百万円 6.0%増**

・ 法人向けおよび教育機関向けパソコンの販売は高価格製品を中心に堅調に推移。

・ セキュリティソフトなどPC周辺機器も好調な販売が継続。

・ LED設置ビジネスは資材不足で遅延していた大口工事が再開し、収益に貢献。



2023年3月期第2四半期 業績ハイライト（直近3カ月）

参考

（単位：百万円）

	2022/3期 2Q実績	2023/3期 1Q実績	2023/3期 2Q実績	前年同期比	直前期比
売上高	117,059	149,302	149,458	27.7%	0.1%
売上総利益	13,582 11.6%	19,838 13.3%	20,163 13.5%	48.5%	1.6%
販管費及び一般管理費	9,733 8.3%	10,018 6.7%	11,621 7.8%	19.4%	16.0%
営業利益	3,848 3.3%	9,820 6.6%	8,541 5.7%	121.9%	▲13.0%
経常利益	3,885 3.3%	9,858 6.6%	9,073 6.1%	133.5%	▲8.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,752 2.4%	6,984 4.7%	6,427 4.3%	133.5%	▲8.0%
EPS (1株当たり四半期純利益、円)	102.48 -	266.10 -	244.79 -	-	-

（注）：「×.×%」は利益率を表します。



10

こちらは、直近3カ月の業績を第1四半期、第2四半期と横並びで並べたものです。ご覧のとおり、第1四半期、第2四半期とも売上高はほぼ横ばいの結果となっております。売上総利益率が、1Qに比べますと0.2ポイント改善しているのがご覧いただけるかと思えます。

前年同期比に比べますと売上高は大きく伸び、また、売上総利益率が1.5%以上改善しているのがご覧いただけるかと思えます。

2023年3月期第2四半期 セグメント別業績（直近3カ月）

参考

（単位：百万円）

		2022/3期 2Q実績	2023/3期 1Q実績	2023/3期 2Q実績	前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	103,782	133,477	134,986	30.1%	1.1%
	セグメント利益	3,423 3.3%	9,018 6.8%	7,599 5.6%	122.0%	▲15.7%
情報機器	売上高	8,077	11,147	8,449	4.6%	▲24.2%
	セグメント利益	342 4.2%	564 5.1%	400 4.7%	17.0%	▲29.1%
ソフトウェア	売上高	669	498	808	20.8%	62.3%
	セグメント利益	▲42 ▲6.3%	▲33 ▲6.7%	129 16.0%	—	—
その他	売上高	4,530	4,178	5,213	15.1%	24.8%
	セグメント利益	103 2.3%	249 6.0%	408 7.8%	295.6%	64.1%
合計	売上高	117,059	149,302	149,458	27.7%	0.1%
	セグメント利益	3,848 3.3%	9,820 6.6%	8,541 5.7%	121.9%	▲13.0%

（注）：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「x.x%」は利益率を表します。



11

こちらは、セグメント別に1Qならびに2Qの業績を横並びで表したものです。電子部品は1Q、2Qとも、大きく前年に比べると増加しているのが見てとれるかと思えます。

2023年3月期第2四半期 M&Aの影響（直近3カ月）

参考

(単位：百万円)

売上高

加賀電子、加賀FEIは電子部品事業がけん引し大幅増収



売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子、加賀FEIは大幅増益。粗利率も向上



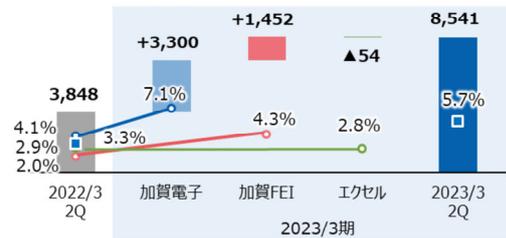
販管費 / 販管費率

売上増に伴い販管費増となるも、販管費率は低減



営業利益 / 営業利益率

加賀電子、加賀FEIが増益に大きく貢献。営業利益率も向上



(注)：売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。12
 なお、連結調整額は売上総利益は▲52百万円、営業利益は▲19百万円です。

2023年3月期第2四半期 会社別業績（直近3カ月）

参考

（単位：百万円）

		2022/3期 2Q実績	2023/3期 1Q実績	2023/3期 2Q実績	前年同期比	直前期比
加賀電子	売上高	65,157	84,339	84,061	29.0%	▲0.3%
	売上総利益	9,261 <i>14.2%</i>	13,040 <i>15.5%</i>	13,693 <i>16.3%</i>	47.9%	5.0%
	営業利益	2,683 <i>4.1%</i>	6,251 <i>7.4%</i>	5,983 <i>7.1%</i>	123.0%	▲4.3%
加賀FEI	売上高	36,095	47,752	51,005	41.3%	6.8%
	売上総利益	3,316 <i>9.2%</i>	5,784 <i>12.1%</i>	5,516 <i>10.8%</i>	66.4%	▲4.6%
	営業利益	721 <i>2.0%</i>	3,040 <i>6.4%</i>	2,173 <i>4.3%</i>	201.4%	▲28.5%
エクセル	売上高	15,807	17,209	14,392	▲9.0%	▲16.4%
	売上総利益	1,024 <i>6.5%</i>	986 <i>5.7%</i>	1,004 <i>7.0%</i>	▲1.9%	1.9%
	営業利益	458 <i>2.9%</i>	462 <i>2.7%</i>	403 <i>2.8%</i>	▲11.9%	▲12.7%
合計	売上高	117,059	149,302	149,458	27.7%	0.1%
	売上総利益	13,582 <i>11.6%</i>	19,838 <i>13.3%</i>	20,163 <i>13.5%</i>	48.5%	1.6%
	営業利益	3,848 <i>3.3%</i>	9,820 <i>6.6%</i>	8,541 <i>5.7%</i>	121.9%	▲13.0%

（注）：1. 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。
2. 「x.x%」は利益率を表します。



13

こちらは、加賀電子ならびにFEI、エクセルの3社の会社別業績の結果となります。ご覧のとおり、加賀電子は1Q、2Qと横ばいですが、前年に比べ大幅に増収となっております。

また、FEIにつきましては、2Qは1Qに比べて増加しているのを見てとれるかと思えます。

また、エクセルにつきましては、2Qは1Qに比べると若干売上が減収となっております。

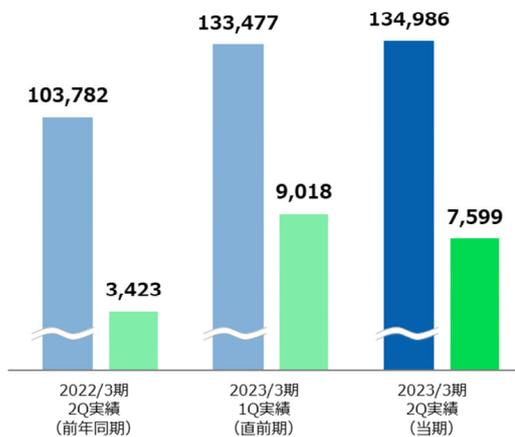
2023年3月期第2四半期業績：電子部品事業（直近3カ月）

参考

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■ / ■ 売上高
■ / ■ セグメント利益



前年同期比

- 売上高 ▶ **+31,203**百万円 **30.1%増**
- セグメント利益 ▶ **+4,175**百万円 **122.0%増**

直前期比

- 売上高 ▶ **+1,508**百万円 **1.1%増**
- セグメント利益 ▶ **▲1,418**百万円 **15.7%減**

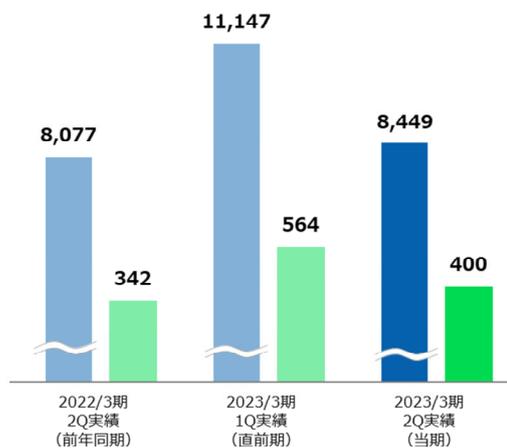
2023年3月期第2四半期業績：情報機器事業（直近3カ月）

参考

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■/■ 売上高
■/■ セグメント利益



前年同期比

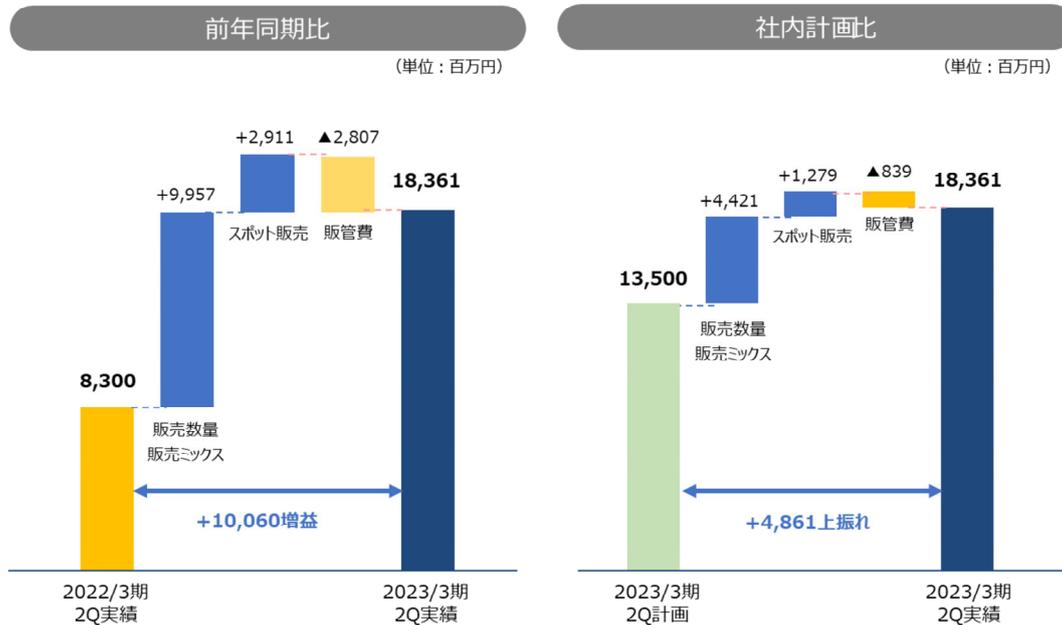
● 売上高 ▶ **+372**百万円 **4.6%増**
● セグメント利益 ▶ **+58**百万円 **17.0%増**

直前期比

● 売上高 ▶ **▲2,697**百万円 **24.2%減**
● セグメント利益 ▶ **▲164**百万円 **29.1%減**

2023年3月期第2四半期 営業利益変動要因

参考

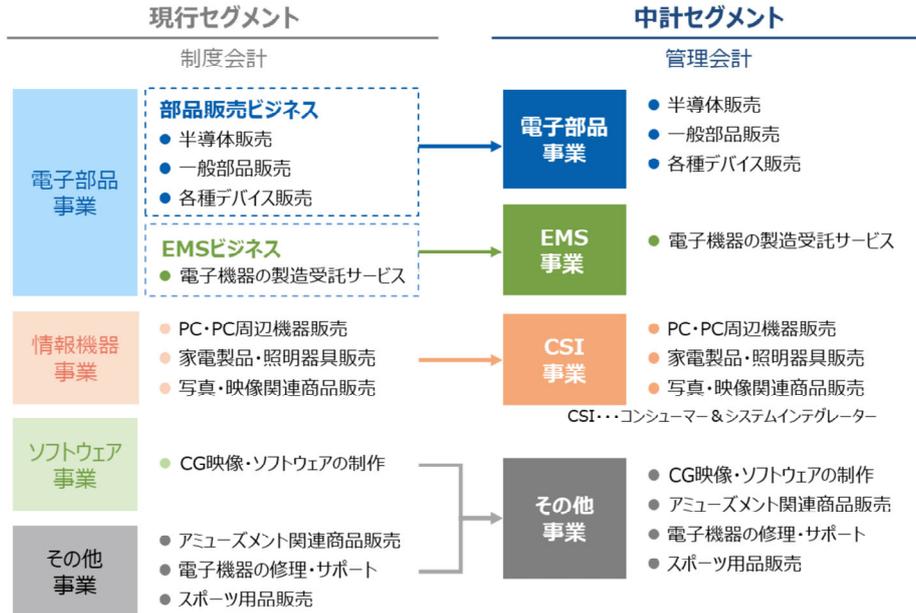


こちらは、第2四半期の営業利益変動要因をグラフ化したものです。営業利益につきましては、前年に比べ100億6,000万円の増益となっています。

その増益の内訳です。販売ミックス、販売数量の増加によるものが99億円、スポット販売によるものが29億円、販管費の増加によるものが28億円、こちらが要因となっております。

また、社内計画に比べますと48億円強の上振れとなっています。販売数量、販売ミックスの増加によるものが44億円、スポット販売によるものが12億円、販管費の増加によるものが8億円、こちらが要因となっております。

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



2023年3月期第2四半期 中計セグメント別業績

参考

(単位：百万円)

		2021/3期 2Q実績	2022/3期 2Q実績	2023/3期 2Q実績	前年比
電子部品	売上高	117,287	144,790	202,867	40.1%
	セグメント利益	851 0.7%	3,948 2.7%	11,689 5.8%	196.1%
EMS	売上高	42,940	53,453	69,486	30.0%
	セグメント利益	2,265 5.3%	3,322 6.2%	5,311 7.6%	59.9%
CSI	売上高	23,192	18,713	19,597	4.7%
	セグメント利益	1,160 5.0%	910 4.9%	965 4.9%	6.0%
その他	売上高	5,438	6,052	6,809	12.5%
	セグメント利益	88 1.6%	64 1.1%	369 5.4%	473.2%
合計	売上高	188,859	223,009	298,760	34.0%
	セグメント利益	4,434 2.3%	8,300 3.7%	18,361 6.1%	121.2%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「x.x%」は利益率を表します。

 加賀電子

18

こちらの表は、中計のセグメント別に、新しいセグメントに第2四半期の実績を落とし込んだものです。過去3期分、横並びにしております。

電子部品ならびにEMSが過去3期、右肩上がりで推移しているのが見てとれるかと思えます。

第2四半期の実績ベースでいきますと、電子部品が2,028億6,700万円となり前年比40.1%増、セグメント利益は116億8,900万円となり前年比196.1%増となっております。

また、EMSは694億8,600万円となり前年比30.0%増、セグメント利益は53億1,100万円となり59.9%増となっております。

この電子部品とEMSの二つのセグメントが増収増益の大きな要因となっております。

2023年3月期第2四半期 中計セグメント別業績（直近3カ月）

参考

（単位：百万円）

		2022/3期 2Q実績 (前年同期)	2023/3期 1Q実績 (直前期)	2023/3期 2Q実績 (当期)	前年 同期比	直前期比
電子部品	売上高	78,665	101,444	101,422	28.9%	▲0.0%
	セグメント利益	2,172 2.8%	6,541 6.4%	5,148 5.1%	137.0%	▲21.3%
EMS	売上高	27,118	33,867	35,619	31.3%	5.2%
	セグメント利益	1,262 4.7%	2,612 7.7%	2,698 7.6%	113.8%	3.3%
CSI	売上高	8,077	11,147	8,449	4.6%	▲24.2%
	セグメント利益	342 4.2%	564 5.1%	400 4.7%	17.0%	▲29.2%
その他	売上高	3,198	2,842	3,967	24.1%	39.6%
	セグメント利益	49 1.6%	79 2.8%	289 7.3%	479.4%	262.4%
合計	売上高	117,059	149,302	149,458	27.7%	0.1%
	セグメント利益	3,848 3.3%	9,820 6.6%	8,541 5.7%	121.9%	▲13.0%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「x.x%」は利益率を表します。

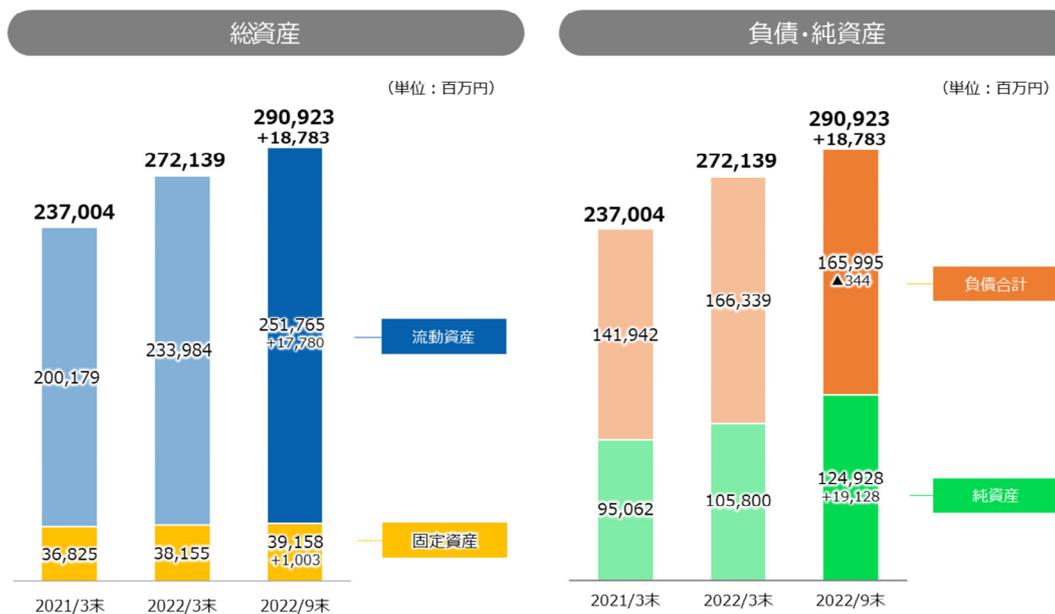


こちらは、同じく中計セグメント別業績を、第1四半期、第2四半期の3カ月ごとの実績値に横並びで表したものです。

電子部品、EMSともに第1四半期、第2四半期、前期に比べますと大幅に増収増益となっておりますが、第1四半期、第2四半期はほぼ横並びになっているのを見てとれるかと思えます。

また、CSIにつきましては第2四半期の売上が若干減少しておりますが、こちらは第1四半期が[音声不明瞭]案件等により、大幅に増加したものであるによる要因です。

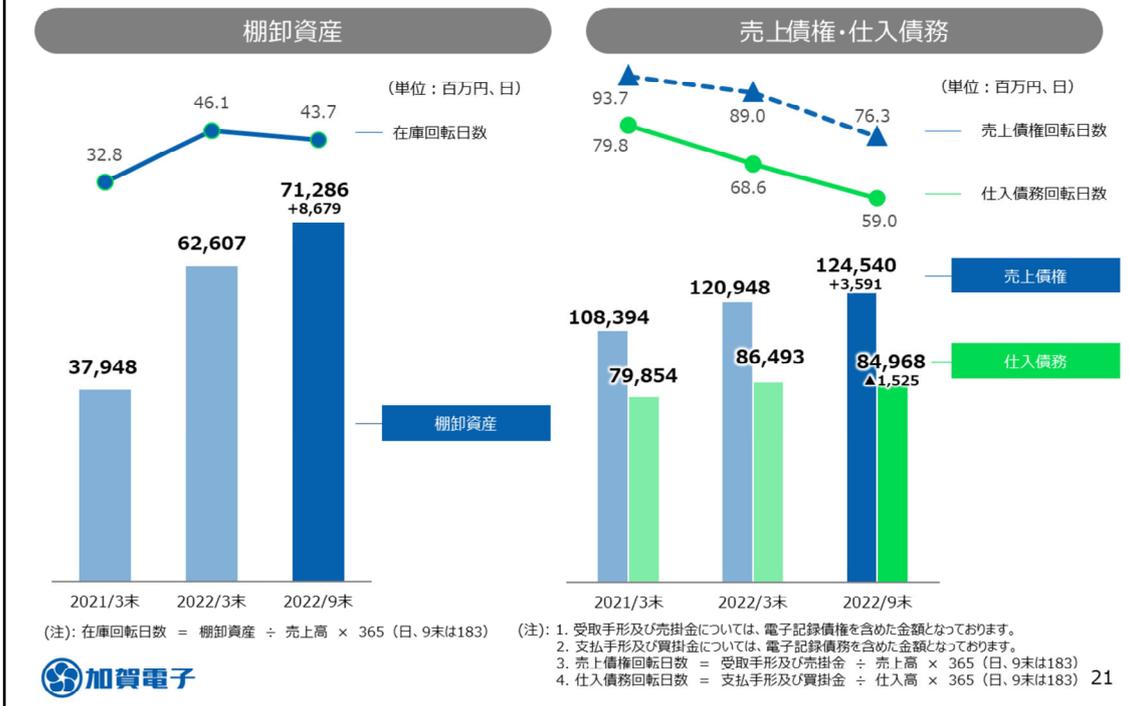
貸借対照表主要項目



貸借対照表主要項目についてご説明申し上げます。総資産は2,909億2,300万円となり、3月末に比べ187億8,300万円増加しております。流動資産が2,517億6,500万円となり、177億8,000万円増加しております。また、固定資産は391億5,800万円となり、10億300万円の増加となっております。

負債・純資産です。負債の合計は1,659億9,500万円となり、3億4,400万円減少しております。純資産につきましては1,249億2,800万円となり、191億2,800万円の増加となっております。

貸借対照表主要項目



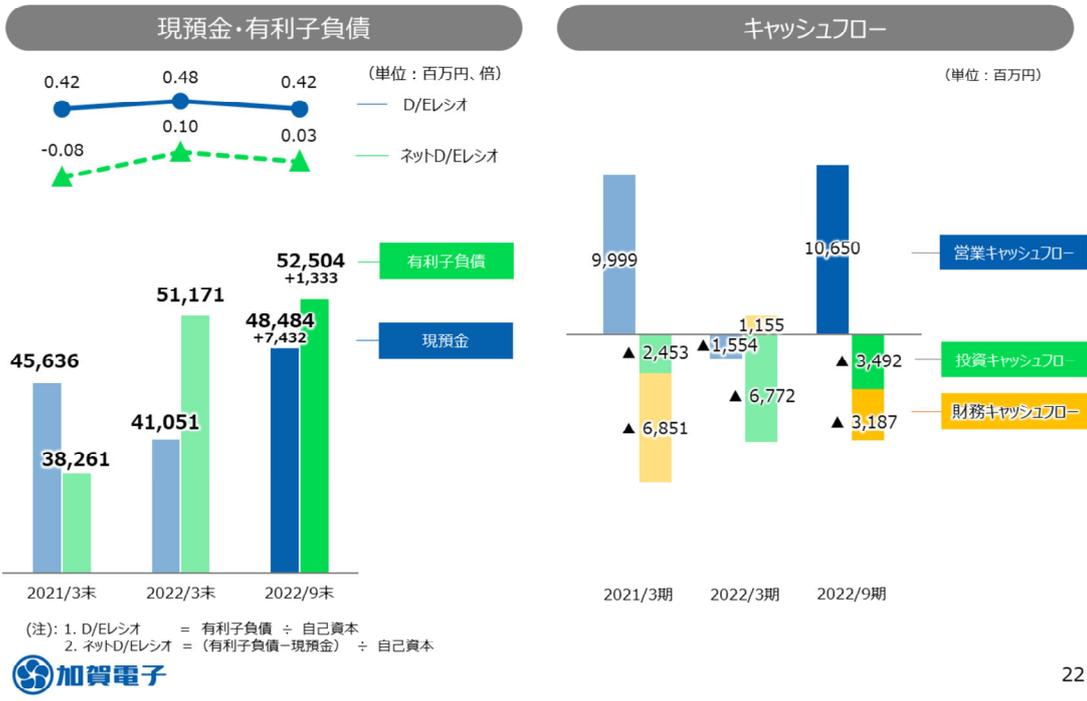
貸借対照表の主要項目のうち、棚卸資産です。712億8,600万円となり、3月末に比べると86億7,900万円増加しております。ただし、2021年3月末に比べますと333億円ほど棚卸資産が増加しており、こちらは電子部品不足による在庫積増しが主な要因です。

ですが、現在の商いからしますと500億円ぐらいが適正な在庫となっておりますので、こちらは後ほど社長から説明があると思いますが、来年の3月末までにはこの在庫金額を縮減していく予定となっております。

売上債権・仕入債務につきましては、売上債権の残高が1,245億4,000万円となり、35億9,100万円増加しております。また、仕入債務につきましては849億6,800万円となり、15億2,500万円の減少となっております。

売上債権回転日数、仕入債務回転日数はともに減少しているのがご覧いただけるかと思っております。

貸借対照表主要項目/キャッシュフロー



現預金ならびにキャッシュフローになります。現預金は484億8,400万円の残高となり、74億3,200万円の増加となっております。また、有利子負債は525億400万円の残高となり、13億3,300万円の増加となっております。

キャッシュフローにつきましては、営業キャッシュフローが106億5,000万円の獲得となっております。投資キャッシュフローは34億9,200万円の使用です。財務キャッシュフローは31億8,700万円の使用となっております。

2023年3月期業績予想

2023年3月期 通期業績予想

※2022年8月4日公表

(単位：百万円)

	2022/3期 実績	2023/3期 前回予想	2023/3期 今回予想	前回予想 との差異	前年比
売上高	495,827	540,000	570,000	5.6%	15.0%
営業利益	20,915 4.2%	24,000 4.4%	28,000 4.9%	16.7%	33.9%
経常利益	21,456 4.3%	24,500 4.5%	29,000 5.1%	18.4%	35.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	15,401 3.1%	16,000 3.0%	20,000 3.5%	25.0%	29.9%
EPS (1株当たり当期純利益、円)	576.46 -	609.58 -	761.70 -	152.12	185.24
ROE	15.7% -	14.0% -	17.0% -	3.0pt	1.3pt
年間配当金 (円)	[120.00 普通配当80.00 特別配当40.00]	[150.00 普通配当140.00 記念配当 10.00]	[200.00 普通配当 140.00 記念配当 10.00 特別配当 50.00]	50.00	80.00



(注)：「 x.x% 」は利益率を表します。

24

こちらからは、2023年3月期の通期業績予想についてご説明申し上げます。

冒頭申し上げたとおり、通期の業績予想を変更させていただいております。売上高につきましては前回予想の5,400億円を5,700億円、営業利益につきましては240億円を280億円、経常利益は245億円を290億円、親会社株主に帰属する当期純利益は160億円を200億円に、それぞれ上方修正させていただいております。

この上方修正による1株当たりの当期純利益は761円70銭となり、ROEは17.0%となります。年間配当金は200円に、50円増配させていただいております。配当性向は26.3%となります。

2023年3月期 セグメント別業績予想

※2022年8月4日公表

(単位：百万円)

		2022/3期 実績	2023/3期 前回予想	2023/3期 今回予想	前回予想 との差異	前年比
電子部品	売上高	433,852	477,000	507,000	6.3%	16.9%
	セグメント利益	18,107 4.2%	21,300 4.5%	24,800 4.9%	18.8%	37.0%
情報機器	売上高	39,616	39,000	39,000	—	▲1.6%
	セグメント利益	2,085 5.3%	2,000 5.1%	2,000 5.1%	—	▲4.1%
ソフトウェア	売上高	2,767	4,000	4,000	—	44.5%
	セグメント利益	▲26 ▲1.0%	100 2.5%	200 5.0%	—	—
その他	売上高	19,590	20,000	20,000	—	2.1%
	セグメント利益	626 3.2%	600 3.0%	1,000 5.0%	—	59.7%
合計	売上高	495,827	540,000	570,000	5.6%	15.0%
	セグメント利益	20,915 4.2%	24,000 4.4%	28,000 4.9%	16.7%	33.9%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「x.x%」は利益率を表します。



セグメント別の業績予想に落とし込んだものです。売上高300億円の増収分をすべて電子部品事業に上乗せしております。その結果、電子部品事業の売上高は4,770億円が5,070億円、セグメント利益は213億円が248億円へと増収増益の見通しとなっております。

経営トピックス

代表取締役社長 社長執行役員
門 良一

加賀電子社長の門でございます。平素は当社のIR活動にご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。これより、2022年度上期の「経営トピックス」を、ご報告させていただきたいと思っております。

新中計経営目標の見直し

修正発表の IR日程

- 来年5月の2023年3月期決算発表において、2024年3月期業績予想とともに修正後の中計最終年度（2025年3月期）経営目標を開示する
- なお、経営目標の修正にあたっては、営業利益のみならず、売上高およびROEも含めてKPIを総合的に見直す

日程変更の 理由

- 計画比上振れのモメンタム持続が見込まれる2023年3月期業績において最終着地の利益水準を見極めたい
- スポット販売の解消、顧客の在庫調整など収益押し下げ圧力が懸念される2024年3月期利益予想の精度を高めたい

まずはじめに、昨年11月に公表いたしました「中期経営計画2024」の営業利益目標の見直しの件につきまして、ご報告いたします。

●本年3月の決算が「中期経営計画2024」で発表した営業利益を上回りました。そこで、今上期の数字を見極めたうえでこの11月に見直し数字を発表すると申し上げていました。

●しかしながら、経営目標の数字は、来年5月の2023年3月期決算発表において、2024年3月期業績予想とともに開示させていただくことに変更いたしました。

●変更の理由ですが、第1四半期、第2四半期と、計画比上振れで進捗している当社の収益モメンタムは、まだ下期も続くことが見込まれますので、2023年3月期業績の最終着地の利益水準を見極めたい、ということが第一の理由であります。

●第二は、スポット販売の解消、顧客の在庫調整など収益押し下げ圧力が懸念される2024年3月期利益予想の精度を高めたい、ということであります。

このように、アップサイド、ダウンサイド両面のリスクをしっかりと見定めた上で、実現確度の高い経営目標を皆さまにご報告させていただきたいと思っております。

EMS事業の成長投資：マレーシア新工場



【マレーシア新工場の概要】

敷地面積	11,300㎡
建屋面積	11,150㎡
従業員数	900名（最大950名）
量産開始	2022年10月
主な生産品目	・各種電源製品 ・衛生設備機器向け実装基板 ・産業機器向け実装基板 ・民生機器向け実装基板



ここからは、「EMS事業の成長投資」につきまして、2件ご報告いたします。
一つ目は、マレーシアの新工場であります。

●既にプレスリリースを行いましたが、当社は2000年からマレーシアにおいて、電源製品や衛生設備機器、民生機器向けに電装基板の生産を展開してきました。半導体不足やサプライチェーンの混乱も解消に向かい、お客さまからの増産要望や新規の引合いが急回復していることを受けて、老朽化してきた既存の工場建屋や設備を一新して、旺盛な需要に対応できる体制を整えることにいたしました。10月末から量産を始めております。

●新工場は旧工場に比べて1.3倍の面積を確保し、最新鋭の設備で導入することで生産品質や生産効率の一層の向上を図ります。既存のお客さまからの受注増に加えて、アセアン地区での分散生産のニーズや現地ローカル企業からの新規案件の受注も視野に、操業開始後5年以内に売上高100億円を目指します。

EMS事業の成長投資：トルコ新工場



【トルコ新工場の概要】

敷地面積	15,000㎡
建屋面積	11,600㎡
従業員数	330名
量産開始	2023年6月
主な生産品目	・空調機器向け電装ユニット ・電動工具向け実装基板 ・車載機器向け実装基板

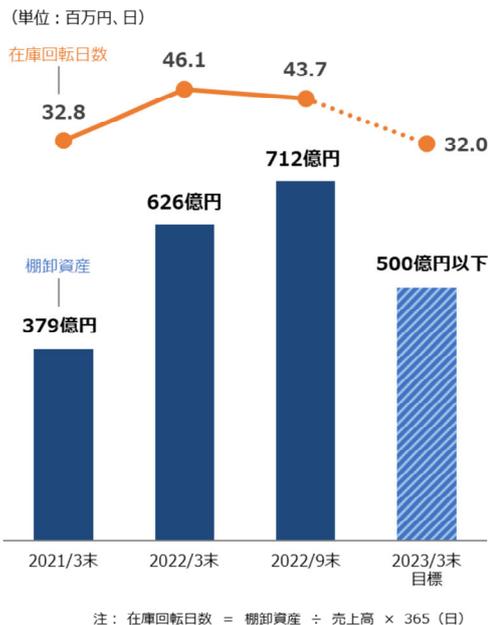


もう一つ、トルコでも、来年6月の量産開始に向けて、新工場の建設を進めております。

●トルコでは、チェコ工場の分工場として2018年に投資を行い、以来、空調機器関連のユニット組立てをメインに生産を展開してきました。今回、その機能を拡張し、トルコでも電装基板の実装にも対応できる体制を整えるため、新工場を建設することとしました。欧州における現地生産・現地調達を強化するお客さまからのニーズに応えるとともに、トルコを拠点にして、当社の基板実装の欧州オペレーション拡大を図ります。

●空調機器から車載関連や産業機器向けにも顧客基盤を拡げ、操業開始後5年以内に売上高50億円を目指します。

在庫削減



在庫増の背景

- ▶ 世界的な半導体・電子部品の供給不足、リードタイムの長期化
- ▶ 部品販売ビジネス：顧客からの先行発注、重複発注に伴う物量確保
- ▶ EMSビジネス：仕掛品の増加、BCPとしての安全在庫の確保

今後の方針・目標

- ▶ 部品販売ビジネス：回転日数15日を目標
- ▶ EMSビジネス：回転日数45日を目標
- ▶ これらを実現すれば、2023年3月末日途に在庫水準は500億円以下、回転日数30日

ここまでは「攻めの経営」のご説明でしたが、このスライドでは「守りの経営」についてご説明いたします。

●いま、喫緊の経営課題の一つは、「在庫の削減」であります。世界的な半導体・電子部品の供給不足、リードタイムの長期化、また国際物流網の混乱などを背景に、多くの製造業が調達方針を見直し、この1~2年、部品在庫を積み上げてきました。

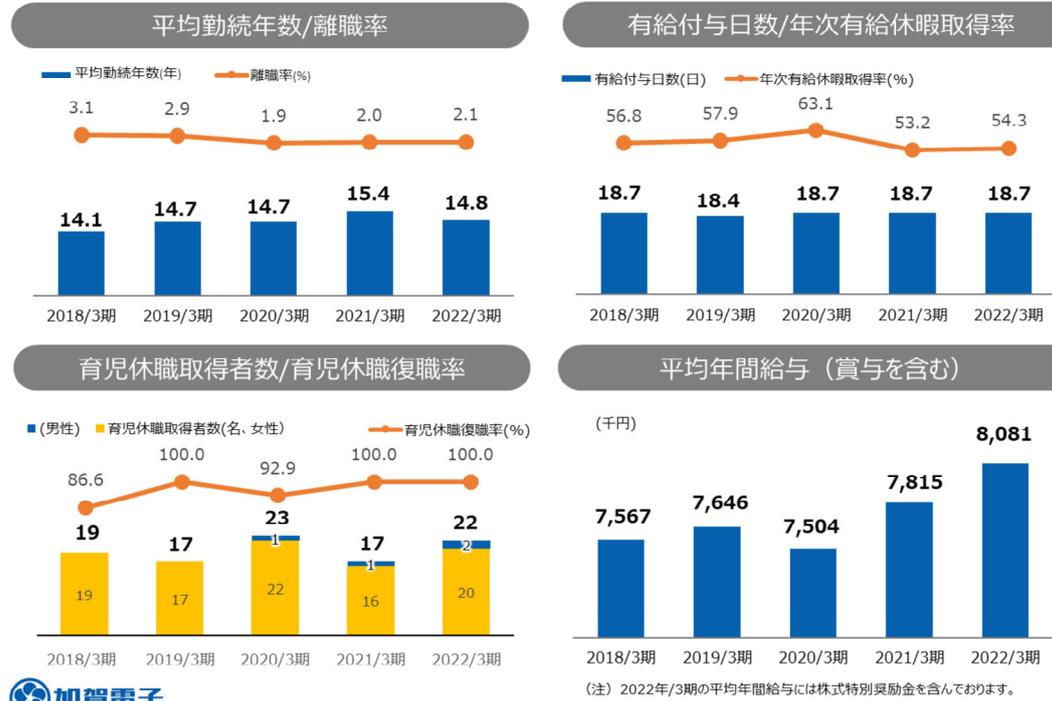
●当社も例外ではなく、部品販売ビジネスにおいては、お客さまからの先行発注、重複発注に伴って物量を確保する必要があります。また、EMSビジネスにおいては、一部部材の調達難に伴う仕掛品の増加やBCPとしての安全在庫の確保などが生じました。

●その結果、当期の期初在庫は1年前に比べて約250億円、この9月末在庫は期初に比べて約80億円強増えております。これらの在庫はいずれもお客さまとは確注ベースですので、このまま滞留するような性格のものではありませんが、いずれにせよ、キャッシュ化を急ぎます。

●回転日数の上昇は、この第2四半期でピークアウトしたものと認識しており、これから期末の3月末に向けて、部品販売ビジネスは回転日数15日を目標に、EMSビジネスは45日を目標に削減を進めます。

これらを実現することで、当期末の在庫水準は500億円以下、回転日数30日に正常化させる見通しです。そして同時に、言うまでもなく、キャッシュが創出されることとなります。

人的投資：統合レポートより



最後のスライド2枚は、サステナビリティ経営の観点から準備したものです。まず、「人的投資」ということで、ここにグラフを4点お示しました。いずれも、今年の統合レポートで開示した情報であります。

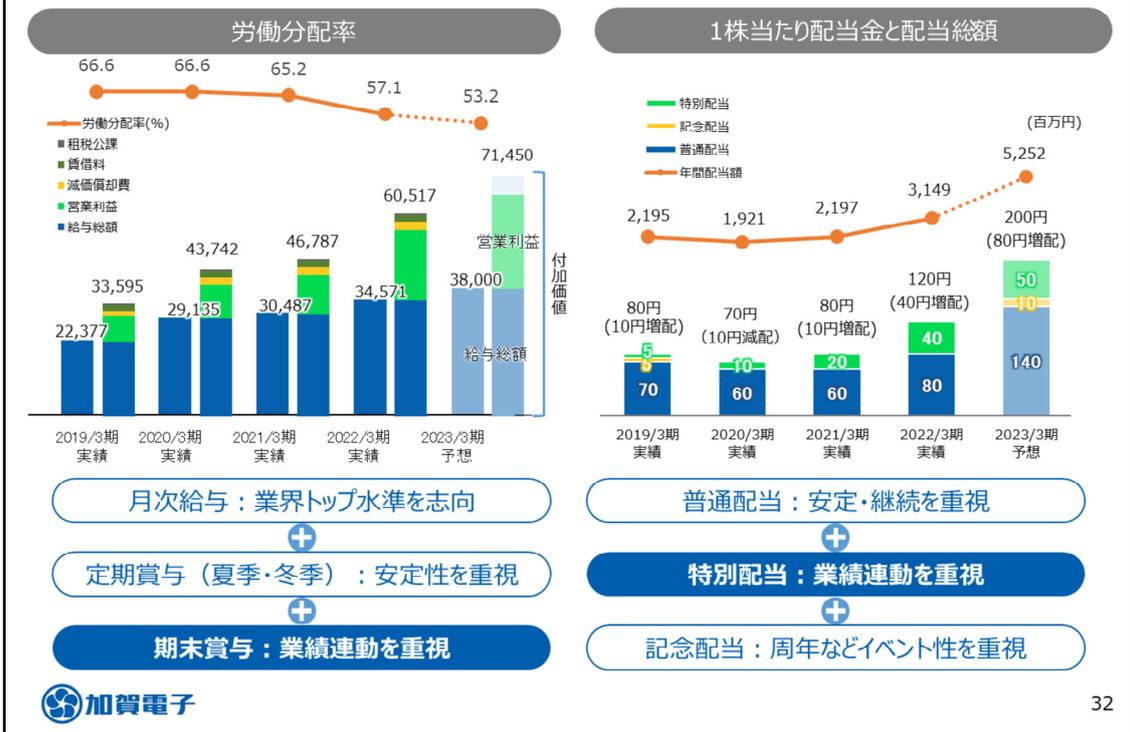
●「平均勤続年数」は大体15年前後で可もなく不可もなくですが、「離職率」は2%前後であり、これはかなり低い方ではないかと思っています。

●「有給付与日数」は18日前後で平均並みですが、当社では、これとは別に「リフレッシュ休暇」を6日付与しており、ここにはカウントしておりません。また、「有給休暇取得率」は55%前後ですが、労働省のデータによれば、卸売業・小売業の平均は48.6%であり、それよりは高い水準にあります。

●「育児休暇」については、毎年20名前後が取得しており、ほぼ100%が職場復帰しています。最近ようやく男性社員からも育児休暇取得者が出てきました。まだまだ少ないので、社内報などを通じて啓蒙活動を進めているところであります。

●「平均年間給与」は、このところの業績拡大も追い風にして、毎年積極的に増やしております。当社の給与は業界ではトップクラスの水準だと認識しております。

ステークホルダーへの利益分配・還元



給与の話が出ましたので、最後のスライドは「ステークホルダーへの利益分配・還元」ということで、2つデータをご紹介します。

●まず、「労働分配率」ですが、60%前後で推移しております。卸売業の平均が50%程度と認識しておりますので、それを上回る水準であります。当社には、「月次給与」「定期賞与」に加えて、業績連動の「期末賞与」というユニークな仕組みがあります。決算が利益予想を上回って着地したときに支給します。

●一方、株主の皆さまへの利益還元につきましても重要な経営課題として取り組んでおります。ここに書かれた通り、当社の配当は、「普通配当」「特別配当」「記念配当」の3本建てになっております。「普通配当」では安定・継続配当を重視し、「特別配当」は業績連動を重視しております。期初予想では先ず「普通配当」をお示し、期中に利益予想の上方修正を行う、或いは決算が最終的に利益予想を上回って着地するようなときには「特別配当」をお支払いすることが慣例となっております。今回も、期初予想の150円に特別配当50円積み増して、1株当たり200円に修正いたしました。

●このように、社員には「期末賞与」で、株主には「特別配当」で好業績にしっかり応えるというのが加賀電子流のステークホルダーへの利益分配・還元であります。

●「儲けは山分け」という創業者、塚本勲の創業来のポリシーに拠るものでありますが、次代へつなぐ当社のDNAの一つとして、これからも大事にしていきたいと思っております。本日お集まりいただいた投資家の皆さんにも、是非とも、「山分け」の輪にご参加いただきたいと思います。

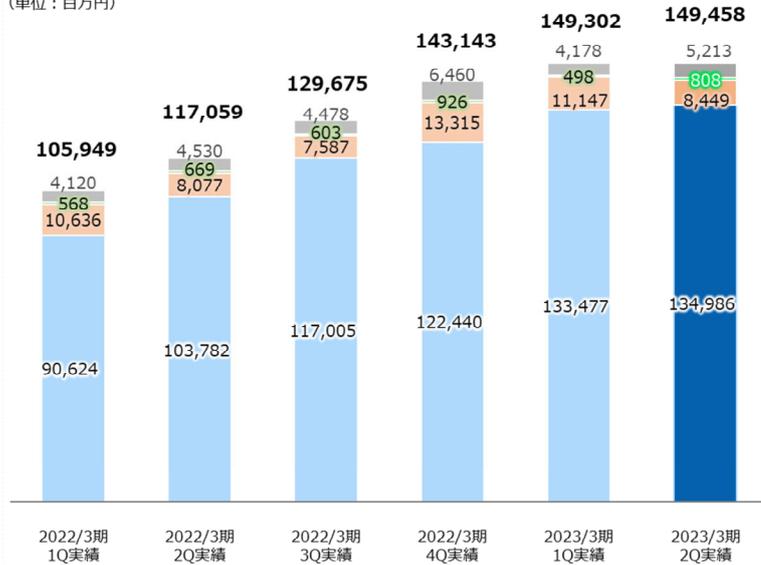
以上でわたしのご説明を終わります。本日は、ありがとうございました。

參考資料

2023年3月期第2四半期 セグメント別業績

売上高

(単位：百万円)



連結合計
 前年同期比：+32,398
 直前期比：+156

その他
 前年同期比：+683
 直前期比：+1,035

ソフトウェア
 前年同期比：+139
 直前期比：+310

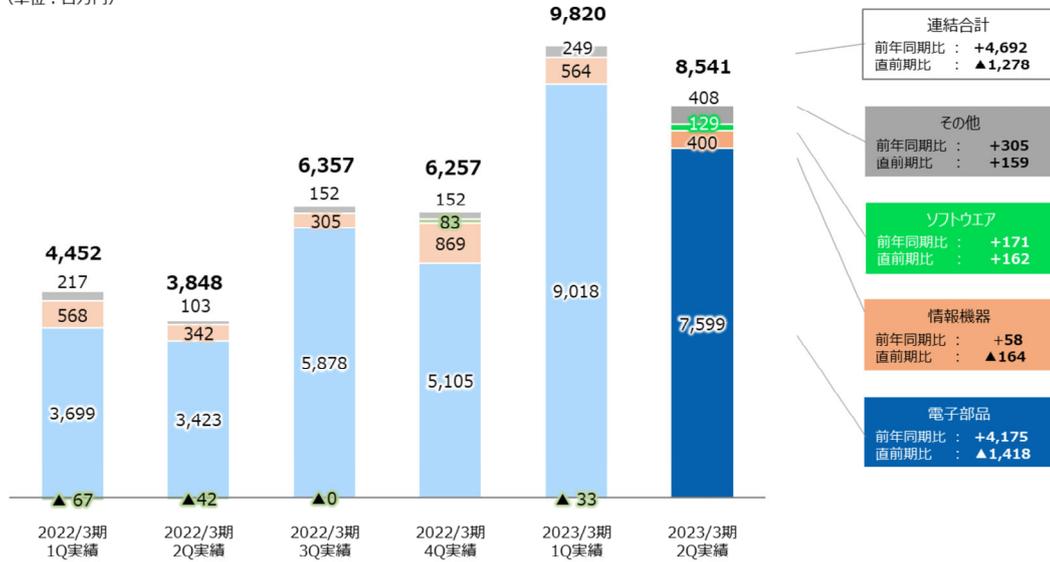
情報機器
 前年同期比：+372
 直前期比：▲2,697

電子部品
 前年同期比：+31,203
 直前期比：+1,508

2023年3月期第2四半期 セグメント別業績

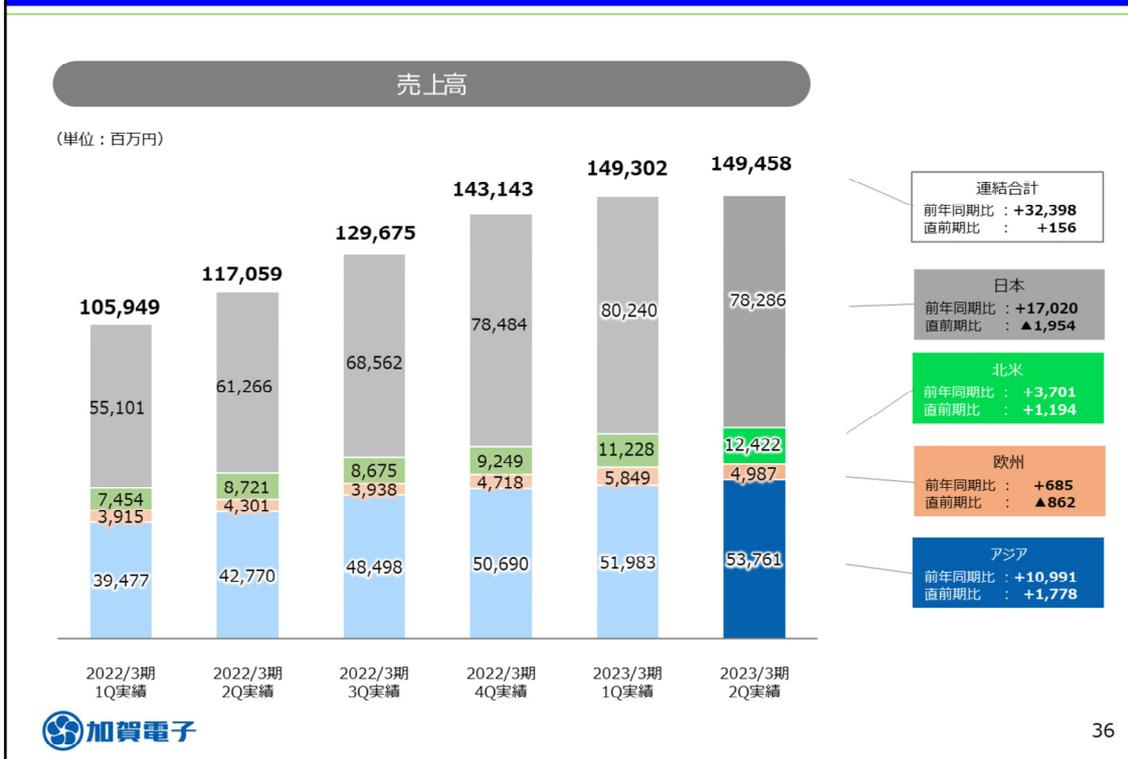
セグメント利益・営業利益

(単位：百万円)



(注)：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2023年3月期第2四半期：地域別売上高



こちらは、地域別売上高になります。23年3月期の第2四半期時点の地域別の売上高は、日本がグレーの部分で、782億8,600万円の売上となっております。それから、一番下の紺色の部分がアジアで、537億6,100万円の売上となっております。

緑色が北米で124億2,200万円、オレンジが欧州で49億8,700万円の、地域別の売上シェアとなっております。

為替レート／為替感応度					
	2022/3期 2Q実績 (円)	2023/3期 2Q実績 (円)	(参考) 1%変動による影響額 (百万円)		2023/3期 前提 (円)
			売上高	営業利益	
米国ドル	109.80	133.97	584	27	130.00
人民元	16.66	18.94	147	4	20.00
タイバーツ	3.42	3.79	145	8	3.50
香港ドル	14.13	17.07	98	3	16.50
ユーロ	130.90	138.73	5	0	135.00

注：2023/3期 3Q以降

 37

最後に、為替レートです。この第2四半期時点の適用為替レートは、米国ドルが133円97銭、人民元が18円94銭、タイバーツが3円79銭、香港ドルが17円7銭でした。

ご参考までに、1%この為替が変動することによっての売上、営業利益への影響額は、USDルが売上高5億8,400万円、営業利益が2,700万円となっております。また、人民元は売上が1億4,700万円、営業利益が400万円、タイバーツは売上が1億4,500万円、営業利益が800万円、香港ドルは売上が9,800万円、営業利益が300万円の影響額となっております。

2023年3月期の想定しております為替レートは、米国ドルが130円、人民元が20円、タイバーツが3円50銭、香港ドルが16円50銭で社内計画を組んでおります。2023年3月期第2四半期時点の全体の外貨建て取引の割合ですが、外貨建て取引全体は、取引額の半分弱が外貨建てとなっており、また、その外貨建て取引のうち半分強がUSDルとなっております。

以上、私から2023年第2四半期の決算概要についてご説明申し上げました。ご清聴ありがとうございました。

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入